

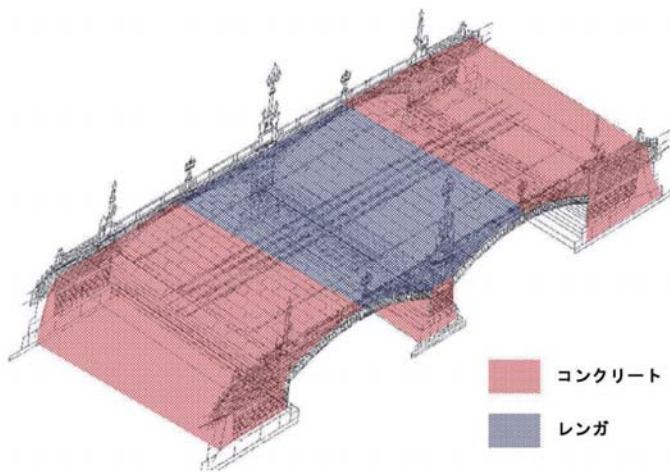
現れたレンガ

石を取りはずした後、その下のモルタルなどを削り取ると、橋の中央部分に赤いものが現れました。

これは、日本橋が造られた当時、中詰材として敷き詰められたレンガです。この橋は、中詰材として中央部分にはレンガ、端の部分にはコンクリートが使われています。

レンガやコンクリートは石より軽いので、橋を軽くするための工夫と考えられます。

中詰材にコンクリートとレンガを使い分けて造られた橋はとても珍しく、日本橋の他には、北海道札幌市の「創成橋」だけが確認されています。



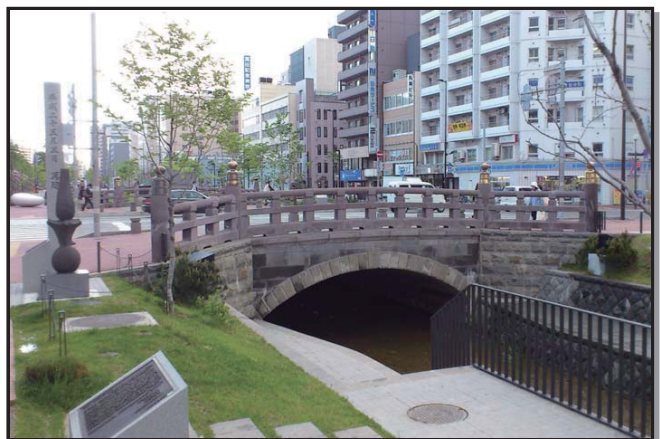
▲中詰材のレンガとコンクリートの位置



▲橋の中央部分に現れた赤レンガ

そうせいばし 日本橋と創成橋

創成橋は、1910（明治 43）年に北海道札幌市中央区の創成川に架けられた札幌に現存する最も古い橋で、「札幌の日本橋」と呼ばれています。



▲北海道札幌市の創成橋

新たな発見！！

橋の表面の石を取りはずしていく途中で、2つの発見がありました。

一つ目は、橋の車道の中央部分が、約20cmくらい低くなっていたということです。

これは、昭和40年代まで日本橋なごりに路面電車が走っていた名残で、このへこんだ部分に路面電車のレールが敷かれていたと考えられます。



▲路面電車のレール跡と考えられる部分

二つ目は、東京市道路元標の基礎と、それに繋がる管路が見つかったことです。

現在、橋の中央には円盤の形をした日本国道路元標が埋め込まれていますが、以前は、東京市道路元標という柱が立っていました。

当時の元標は、照明柱としての役割もあったため、見つかった管路は、照明用の電線を通すためのものだと考えられます。



▲東京市道路元標の基礎と管路

元標の基礎

路面電車と元標

開橋当時の日本橋には、路面電車が走っていました。そのため、当時の東京市道路元標は路面電車の架線柱を兼ねた照明柱でした。

しかし、路面電車は廃止となり、そのレールを取り除く工事に伴って、それまで設置してあった東京市道路元標は現在の元標の広場に移されました。

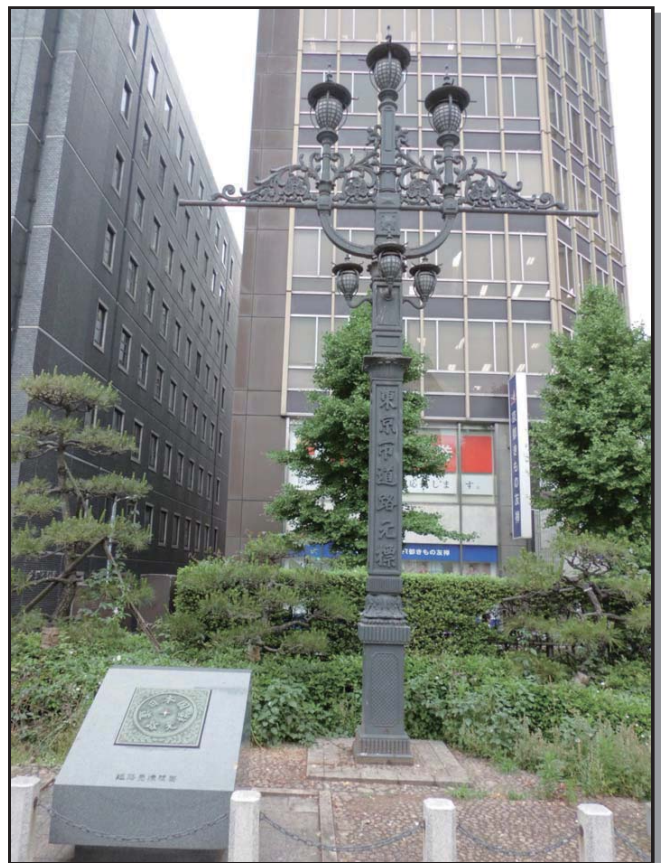
そして、日本橋の中央には新しく日本国道路元標が設置されました。

日本国道路元標は車道の中央にあるため普段よく見ることはできませんが、毎年7月に行われる『名橋「日本橋」を洗う会』のときに見ることができます。

また、橋詰の元標の広場（橋の北西側）で、東京市道路元標と日本国道路元標（複製品）を見ることができます。



▲昭和初期の日本橋 東京都中央区立京橋図書館所蔵



▲元標の広場にある新旧の道路元標